

## 津波被災地・戸倉地区の移転先決まる

JCC事務局会議の了承を受けて、肌寒さの残る 3 月 13・14 日、諏訪きぬ・井岡健・今日子の3名で5度目の南三陸町訪問をいたしました。

目的の一つは、3 月末の退職を控えた三浦房江名足保育所長（南三陸町支援の糸口となった方）、小竹ひろ子志津川保育所長（昨年 3 月の日中児童画展開催で力を尽くしてくださった方）たちと懇談したかったこと、二つには復興計画の進捗状況を確認したかったことです。

### \* ホテル観洋レストランで和やかなおしゃべり会



大津波災害のシンボルとして建つ南三陸防災庁舎。その海側には埋め立ての目途となる盛り土が置かれて、復興計画が

徐々に動き出したことが見てとれます。インフルエンザの流行、家族の都合などで、懇談に参集してくれたのは予定の半数、三浦さん、小竹さん、高橋さん（名足保育所主任・男性）の 3 人でした。「ホテルでの食事なんて久しぶり・・・」と、ささやかな定食ではありましたが、保育所の現状や災害支援の状況、南三陸の今後などについて和やかに懇談をしました。

**心懸かりな人口流出** 災害前に 17,000 人あった人口が3分の1くらい減って、月に生まれる赤ちゃんは 5~6 人。「絶対数が少ないので、保育所の将来は明るいとは言えない。高台移転も遅々として進まないの、小さい子をもつ家族が外に出る」と小竹さん。広域入所に切り替えても、志津川保育所に 120 人いた子どもが80人減少した。

**外部に出かけて体験を語る取り組みも** 「一番の気持ちは、私たち被災地が忘れ去られることだ」と高橋さん。佐藤仁町長と共にA県に出かけ、ある市で「保育者として災害時にどのように子どもを守ったか」を話す機会があった。「外に出てみて思ったことは、自分たちで発信しないと、支援に来てくれるのを待つだけでは、どんどん忘れ去られてしまうということだった」。

## 戸倉小学校わきに戸倉保育所建設！

工藤和貴子伊里前保育所長の三重県の方まで話に行ったということで、支援の新しい形が求められているように感じられた。三浦さんは「私は絵本が好きだから、お話おばさんにでもなろうかな！？」。寄る辺を失った子どもたちの支え手として、三浦さんが地道な活動を展開されることを期待してやみません。

### \* 今年もまた鉛筆削りをプレゼントしました

3園の先生方の要望を受けて、今年も卒園する園児のみなさんに鉛筆削りを送ることにしました。役所から遠方の園から回ることに決め、井岡さんの運転で、伊里



前保育所へ向かいました。体調を崩していた園長の工藤さんも出勤されていて、子どもたちと一緒に私たちの到着を待っててくださいました。真剣な表情で受け取る子、はにかんだ表情を見せる子とさまざまでしたが、「小学校へ行ったら、頑張ってね」と声をかけると、皆コックリとうなずいてくれました。インフルエンザで年長クラスが一つ閉鎖になっていたのは、心残りでした。

次に向かったのは、三浦園長・高橋主任さんの待つ名足保育所へ。僻地の3保育所を合併して2007（H19）年にできた名足保育所は、建物も新しく、唯一津波が来なかったところではあります。そのため保育所・小学校の災害用の備蓄場所にも指定されています。9人の卒園児のうち、ふたりのお子さんが午睡をしないで待っていてくれ、高橋主任の司会で贈呈式を行いました。お祝いの言葉を伝えると、愛らしい笑顔が返ってきました。



最後に向かった志津川保育所は、高台に一つだけ取り残されてぼつんと建っています。南三陸町の中心部であった志津川の街は、壊滅状態で街並みは消え去ってしまっています。ここに集う 80 人の乳幼児たちは、この殺風景な風景を日々どんな気持ちで眺めている

のでしょうか？町役場に訪ねる時刻が迫ってきたため、玄関ホールでの贈呈を終え、最後に集合写真を撮ってお暇しました。



これからもずっと、卒園お祝いを届けることができたら素敵ですね！

1人ずつに手わたしたパンダも嬉しかったようで、早速、大事そうに胸につけていました。



**\*動き出した高台移転計画**

最後に南三陸町役場を訪ね、戸倉保育所再建計画の進行状況を伺いました。議会開催中とかで佐藤仁町長さんや最知明広保健福祉課長さんにはお会いできませんでしたが、佐藤正文課長補佐、菅原由美こども家庭係長、芳賀勝弘こども家庭係首席主幹の3人が対応に出くれました。

会議室では、戸倉地区の移転先が決まり、すでに山を切り崩して、戸倉地区の8~9割の住民のための住宅と戸倉小学

校、戸倉保育所の建設予定地が造成されつつあること、戸倉小学校や戸倉保育所の第1次設計図が出来上がってきていること、小学校・保育所共に2015年9月には開設できること等、嬉しい報告を聞きました。

こもごも図面を広げて見せてくれるその手が、心なしかやや震えているように見えました。私たちが「よくぞここまで・・・」と涙ぐみ、感動している気持ちが伝わったのかもしれない。

一通り説明を終えたところで、佐藤課長補佐は言いにくそうに「支援金をできるだけ速やかにいただければ・・・」と切り出しました。建設補助金は工事終了後に支給されるため、運転資金が不足する・・・とのこと。「日中草の根交流の記念が何らかの形になる目途が立てば、その要望に添いたい」と答えておきました。上海宋慶齡基金会からの義捐金が、より有効に活用されることを、メンバー一同、願っているのですから…。今後、早急にこの部分を保健福祉課や保育園のスタッフと詰めていくことが必要です。

その後、実際の建設予定地に案内していただきました。道なきところに道を拓き、ブルドーザーなどの機材を運び入れ、急ピッチで宅地造成が進められていました。これから1年半後には、ここに住宅が立ち並び、小学校や保育所も開設されて、ここでは見たことのない美しい街が生まれます。オープニングには、皆さんでお祝いをもって駆け付けましょう！！（諏訪きぬ 記）

